



KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督トーク
 シライズ カフェ
 『SHIRAI's CAFE』 Vol.2

レポート

2017年11月12日(日) 17:00~
 KAAT 神奈川芸術劇場 1F アトリウム
 芸術監督：白井 晃 (演出家・俳優)
 ゲスト：スガダイロー (ジャズピアニスト)

KAAT 神奈川芸術劇場芸術監督の白井晃が、ゆかりのある音楽家をゲストに迎え、音楽、演劇、劇場について語る「SHIRAI's CAFE」。第2回のゲストは2015年白井演出の『パール・ギュント』、16年『マハゴニー市の興亡』に参加した、ジャズピアニストのスガダイローさんです。子どものころから音楽家に憧れ続けてきた白井の率直な好奇心と、スガさんの尖鋭的でありつつ、飾らない佇まいが生み出すトーク、演奏は、舞台作品からだけではうかがい知ることのできない、音楽や歌、KAAT という劇場の魅力を伝えてくれました。



スガダイローさん

この日の SHIRAI's CAFE は、白井晃演出のミュージカル『アダムス・ファミリー』終演後に開催されました。ゲストのスガダイローさんが、1階アトリウムにおかれたピアノに向かい、おなじみのテーマ曲の冒頭を弾き始めると、5階の大劇場を出たお客さまの中にも足を止め、手拍子で参加。2階へと続く階段にも見物客が並び盛況ぶりの中、白井が登場し、スガさんとの、音楽とトークによるセッションが始まりました。

2015年にKAATで上演された『パール・ギュント』で、スガさんが音楽・演奏を担当して以来の仲だという二人。前半は白井が、スガさんのホームグラウンドである「ジャズ」「フリージャズ」について率直な疑問をぶつけ、スガさんが実演を交え、それに答える展開となりました。良く耳にする「ジャズアレンジ曲」について、「ジャズとは何か。どうすればジャズになるのか」との問いには、2拍子から4拍子に変える、不協和音も交えるなど、ごく具体的な方法を示したうえで、ふたたび『アダムス・ファミリー』を演奏してみせたスガさん。聞き慣れたメロディーが、次第に脱線、激しくも自由な旋律、響きとなり、また元のメロディーへと戻る流れは、実に鮮やかなものでした。また、ご自身のオリジナル曲『臨界』と、白井との出会いともなった舞台『パール・ギュント』の楽曲『終末』をつなげて演奏した場面では、激しさと静謐とが隣りあう、スガさんならではの世界観を堪能することもできました。『臨界』は、チェルノブイリの原発事故から25年の節目に書かれた作品とのこと。核融合と、終わりのない自分探しの終局で「生き方」を問うファンタジー『パール・ギュント』とは、一見かわりはありませんが、生と死を考えるとという意味では、深いところで繋がっているのかもしれない。

「ミュージカル楽曲のジャズ風アレンジは、ジャズマンへのレコード会社の売り込みの成果だと思う」「即興の方法論は、周りと合わせるか、逆をやるか、無視するか。この三種類をほどよくブレンドすること（笑）」など、スガさんのお話は、簡潔で、飾ったところがなく、ユーモアを湛えてもいます。これは仕事においても変わらないようで、白井はそんなスガさんとの対話をとても楽しんでいるとのこと。「おおらかで、率直。それでいて緻密でもある。僕がねちっこく気にしているところを、意外に『そこは適当に』とおっしゃる。かと思えば、細かいところはきちんと押さえていたりするんです」（白井）。

ジャズのインプロビゼーションにおける「合わせる・逆らう・無視する」の3つの手法を、白井の語りとスガさんのピアノで実演してみせたのをきっかけに、話題は、演劇や KAAT という劇場へと向いていきます。「若いころからジャズに適当な日本語詞をつけて歌うのが好きだった」という白井が、第1回の SHIRAI's CAFE に続き、歌を披露（もちろん演奏はスガさん）。デューク・エリントンの『Don't Get Around Much Anymore』の替え歌、初日を控えた演出家の焦燥を活写する『どうなってんだ……』には客席のあちこちから笑い声があがりました。ドラマの撮影が遅れて稽古場に現れない主演俳優、本番直前になって動かなくなる装置、勝手な芝居を始める俳優たち……。もちろん、そんなリアル(?)な嘆きの裏には、それでも尽きることない演劇への愛情があるのでしょうか。「芸術監督や演出家になると、いろんなことに直面します。自分だけで全てできればどんなにいいかと思う。でも、そんな演劇だからこそできることもたくさんあるんです」と白井は言います。



白井晃芸術監督



最後の一曲は、来年1月に KAAT で上演されるブレイクの『三文オペラ』から。クルト・ヴァイル作曲の『Mack The Knife』の歌詞を、KAAT 誕生から現在までのストーリーに置きかえた、これも白井のオリジナルソングです。金の卵から「カー(ト)」と泣きながら生まれた雛が、直後の震災も経験しつつ、やんちゃに育ち、たくさんの人を魅了し、時には怒られてながらも「カー(ト)カー(ト)」と飛び回る—という歌詞は、この劇場と、その場に集まった観客の皆さんとの距離をグッと縮めるもの

になったのではないのでしょうか。自ら曲紹介する白井が「すごく KAAT を愛してるって感じの芸術監督でしょ（笑）」と言ったのも印象的でした。

【当日の演奏曲】

*いずれも白井晃のリクエストにより

- Adams Family Theme
- Autumn in New York
- Adams Family
- 臨界、『パール・ギュント』より「終末」
- Don't Get Around Much More
- Overjoyed
- Mack The Knife



レポート：鈴木理映子